

委員会活動報告

産業経済委員会

武雄市に学ぶ

5月17日、産業経済委員会は武雄市視察を実行、武雄と言えば樋渡市長と図書館と言われるように連日視察申し込みは日本一と言っても過言ではありません。私ども委員会と致しましても活動の一貫として足を運んで参りました。

まず、行政の説明前に図書館の現場視察を行い、今話題のレンタ



ル大手ツタヤを指定管理者とし、スターバックスコーヒーを迎えた樋渡市長の政策、アイデアと議会の対応を肌で感じた次第です。

4月1日改築オープンより1か月、前年同期比5倍、10万人の来館者、まさに驚くべき結果であります。武雄と言えば温泉は元より焼き物をはじめ数多くの「武雄の匠たち」の努力と活動は住む人に夢と希望を与えています。

平成18年の樋渡市長の着任は地域産業の安定した発展を促すばかりではなく、これまで優れた自身の経験を生かした一丁の活用をはじめ、政策、決断は見事成果を残してきたと言えます。また、誰の目にも適材適所を思わせる人材の配置は職員のやる気と異様なまでの明るさと自信を感じさせられました。環境は違えども、大川が武雄に学ぶものも多い。この様に身近な所に学びがあることを再認識した有意義な視察でありました。

(永島 守 前産業経済委員長)

建設委員会

大山ダムの視察を終えて

建設委員会では、本市水道事業に影響のある大山ダム建設について、調査研究を進めてきた。大山ダムは、総事業費1千60億円をかけて、治水や既得取水の安定化、河川環境の保全、新規利水などを目的に造られたが、ダム完成後には、福岡県南広域水道企業団に支払う本市受水費の負担増などの課題もあり、市長等執行部との協議の中で負担が少なくなるようにできないか求めてきた。

企業団での調整の結果、料金体系の見直しや本市の基本水量（一日最大水量）1万6千600m³の内300m³を広川町へ移行することにより、受水費の負担は、平成25年度当初見込んでいた対前年比4千200万円増から900万円増へと減らすことができた。

今回の大山ダム視察の目的は、まちおこしに奮闘された方々や建

設に携わった行政機関にそれぞれの立場からダム建設までの思いをお尋ねすることであった。

水源を持たず全面受水している本市にとって筑後川上流の大山ダムからの水道用水の確保は大切であり、更に、海苔養殖にも、この水が役立っている。私たちへの水の供給が自然の生態系にも大きな影響を与えかねない犠牲を払われた上でなされていることを忘れてはならないと感じた。

「公共事業は法にかなない、理にかなない、情にかなうものでなければならぬ。」と言った室原知幸さん（蜂の巣城）の言葉が思い出される視察であった。

(川野栄美子
前建設委員長)

